

通 信 伯 林 を 訪 ね て

藤 井 真 透

三月十五日午後三時二十五分北驛發の國際急行列車に投

じて巴里に別れを告げ、自耳義を経て翌日午前八時三十七

分伯林 Zoo 駅着。内務省警保局の營法學士に迎へられて

一先駆 Schoneberg の Berchtesgardner 街に落付き、直ち

に伯林の概念を得る爲に同君とバスでウンター・デン・リン

デンに行き、ツォイグハウスに獨逸建國の精神を味ひ、午

後はボツツダム廣場、ブランデンブルグ門、パリ廣場、議

事堂、戰勝記念塔、ビスマルク像等を見、ティーレガルテン

を経て歸つた。伯林各所視察に先だち Ent の案内記で

伯林の大觀を知り、Invalid 街の交通及建築博物館を參觀

した。以下順次伯林での印象を列舉する。

一 省參事官 Von Schenk 氏は華府會議で特に親しく

なつた人、ウンター・デン・リンデンの事務所に訪ねて久闊

を舒し、米國內旅行の寫眞を見て其思出や英佛の旅を語り、

日本の寫眞帖、廣重の鯉、京都雪景色の石版刷等を贈り。

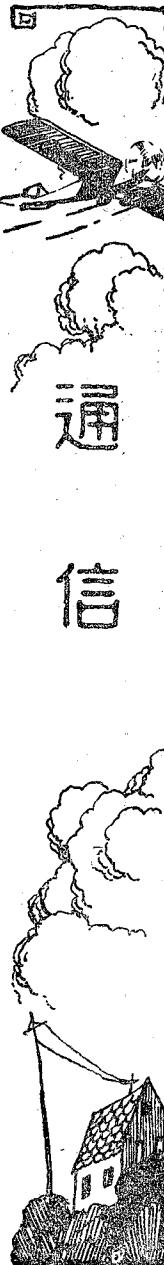
獨逸國內見學の希望を述べて其援助を依頼した。彼は翌日

ブリストルホテルに彼の助手 Von der Linde 氏と共に招

待して呉れ、極めて打ち解けた態度で獨米工業の比較論を

やり、彼の著書をくれて其内容を説明し、僕も日本のも

を以て極めて有益な一夕を送つた。



ii 技師 Dr. Wiencke 訪問。土木局道路部長の職に在

り、D.S.V.（獨逸道路築造聯盟）の本部も此處にありて、Brannselweig の試験道路の設計も氏の下で行はれたのである。茲で本聯盟調製の示方書既刊のもの四冊を貰つたが、其第四號のタール鋪装に關するものは他では得られないものだ。尙全國各地視察の紹介をも依頼し、局員 Dr. Skeopnik の案内で試験室を見た。室は狭いが能く整備され操作も町寧の様に見受けた。比粘度に就いて語り、Ratzeburger の稠度計を見たく思つたが其の設備は無かつた。Krammer-Sarnow の軟化點試験器も繰り返し頗んだが餘り幼稚なものと思つたのか見せなかつた。乳剤の話が出たら一九三一年の塊國道路年報を出して見せたが、僕は獨逸人は獨逸人の書いたものを見せるべきだと思つた。同氏の案内でも柏林郊外ボツツダム、グロスクロイツ、ライプチヒ街道等を視察し、州技師 W. Tinne 氏の説明で碎石道、ダマン・アスファルト鋪裝、ターマカダム等を見學し、舊來の碎石道が次第にターマカダム其他の上級鋪裝に進化しつゝある姿を眼のあたり見た。途中一輪自動ローラーの運轉し

あるのを實見した。

ii ダマンアスファルト鋪裝はエツゼン市の Dr. Dantemann の發明せる所謂エスネル・アスファルトであり、現今ダマン鋪裝の名で通り、工費僅に $5.5RM/m^2$ であつて實に獨逸の誇りとするといふ、極めて急速に普及しつゝある同會社現在の代表者 T. Matzdorff 氏を其の本社に訪ねたら、幾多の有益な参考書を呉れた上、技師 Karl Berner 氏を呼んで實驗室を見せ、ダマン・アスファルト及之に用ふる鑛滓砂の見本をも呉れた。別れるに臨み K. Berner 氏から自著の「ダマン鋪裝の發達」なる論文（雑誌「アスファルト及びタール」に掲載のもの）を贈られた。

日曜日社長 Matzdorff 及び Berner 技師が訪ねてくれ二日に亘り柏林郊外を案内された。第一日は柏林の北郊 Tegelesee に沿ひ、Henningsdorf 及 Falken を過る、Velten 市に至る區間であつた。Velten 市では市長 Tieger 氏に逢ひ、其の案内を受けた。二日は柏林の西郊 Potsdamstrasse, Hauptstrasse を過る、Potsdam に至り、Leipzig 街の試験鋪裝を見た。鋪裝の種類は、常溫アスファルト、タマ

ンアスファルト、薄表層工、タール路面處理、ビアリット、シートアスファルト、タール塗装等である。案内した Mautzendorff 氏は大戦中、將官として従軍した人でその軍服は Potzdam 宮殿内の博物館に飾られてあるとのことである。

四 國立材料試驗所訪問、柏林市外ダーレムの植物園の傍にある煉瓦造りの建物、室が狭いと見えて廊下に澤山列べてある。夫々擔任の教授達の案内を受けた。顯微鏡室ではツアイス及びライツ・ウェッラーの一〇〇〇倍のものを

見、セメント試驗室では遊離石灰を見たが、こゝの主任の

Rodt 教授は主としてセメントの腐蝕の問題を語つた。混凝土試驗室では同所考案の伸張試驗用測定器を見たが、マルテンスのものと大同小異であつた。Bauschinger の測定器はこゝでも餘り重きを置いて居ない様であつた。其他地質試驗室、水壓試驗室、養生室等を見て半日を費した。

五 専用自動車道路視察、Charlottenburg から Potzdam に向ふ會社經營の自動車道路（通稱 Avus）は延長一〇糠で面積四三〇萬坪の Grunewald を貫いてゐる。社長の Falke 氏に逢ひ、その説明を聞きつゝドライブした。用地

は Wilmersdorf のもので四〇年間賃借し、現在一日一、五〇〇臺の交通量があり、年八分の利益を擧げて居る。將來 Potzdam, Magdeburg 及び Leipzig 方面へも延長の計畫がある。全幅四〇米の内八米宛の往復二線を有し、鋪裝はタール・コンクリート及びセメント・コンクリートが主で一部にクリンカーを用ひて居り、平均鋪裝工費 7RM/m²であつて、自動車の速度は平均 74km/h である。

六 伯林市廳訪問、高級技師 Löschnann 氏を訪ぶつもりの處、四月二十六日迄旅行の爲め不在中は技師 Hoffmann 氏が逢ふとのことであつたが、指定の時間に行けなかつた爲め Forst 氏に面會。柏林市の鋪裝上の意見を問ふて、その新工法、特に現代鋪裝の問題たる滑り止工法、Seestrasse の新式街路、Alexander 廣場の改良等を聽いた。就中粗面アスファルト鋪裝は彼の得意とするところであつた。

七 Charlottenburg 區役所訪問、先づ化學實驗室を見る。主任の Dr. Hermann は瀝青材料破壊點試驗方法の提案者であつて、その得意の實驗を見せてくれた。該試驗器は Essen 市の Frass で造るとのこと、型錄を取り寄せるこ

とにした。又 Krammar-Sarnow 及び滴下點試験に就いても尋ねた。次いで工學及理學實驗所に入り、瀝青混合材の抗張力試験器と針度に依る安定度試験器とを見た。

八 獨逸セメント聯合會訪問、Riepert 氏を訪ねたが旅行中なので、Kirschberg 氏に逢ひ、Riepert 氏著「獨逸國內の混擬土鋪裝」と R. Ozen 氏著の「高級セメント」等を贈られた。自動車道路研究會の本部も茲にあつて、會員僅に六百に過ぎないが、諸種の示方書を編纂し、道路工學の發達に資する處が多い。

九 窯業協會化學實驗所、試験機の主任 Dr. Schlosser を訪ね、自記凝結測定器、Ro-Tap 振搖篩 D. I. N. (獨逸工業規格) 篩を千倍に擴大して試験する幻燈等を見せてくれた。

十 伯林工科大學道路試験所、フランクリン街に訪ふ。Becker 教授旅行不在、所長 Schenk 博士に逢ひ、直ちに試験室に案内された。化學室で初め引火點を説明されたので、燃燒點は矢張五秒繼續できめるのかと聞くと、さうだと答へて喜んでそれからは特に興味のあるもののみを説明してくれた。Ruitzer, Bauschinger 等の測定器及タールと

アスファルトとの混合機を見た。別室に碎石試験機、Boehme 磨耗試験機及び摩擦係數を測定するブレーキ試験機等があり、尚車の振動を測定した曲線を見せたので、ピッチを當てて見たら日本で計つたものを求められた。標本室ではドロマイド混擬土、ルーベナイト、鐵鋪裝、ゴム鋪裝及び鋪裝用陶塊等を見た。土木學會の寫真帖、土木試験所報告第十八號等を贈つて説明したが、別れ際に、是非通信を交換したい、一度逢ふと互に興味を以て報告を讀むから嬉しく語り、自著「自動車交通上に於ける路面の摩擦と滑り」を呉れた。レスデン工科大學の Geisler 教授は、華府會議でよく語り合つた人なので、伯林着と共に手紙を出し、土木試験所報告第十號、十六號、十七號及び第十九號を送り、特に第十九號の結論の部を獨釋して送つたら、待つて居るから来てと云つて來たので、近いうちに行つて見るつもりである。